

Title	特集「これからの大学における情報教育」
Author(s)	清川, 清
Citation	サイバーメディア・フォーラム. 2015, 16, p. 3-3
Version Type	VoR
URL	https://doi.org/10.18910/70385
rights	
Note	

Osaka University Knowledge Archive : OUKA

<https://ir.library.osaka-u.ac.jp/>

Osaka University

特 集

特集：これからの大学における情報教育

清川 清（大阪大学）

本学における一般情報（処理）教育は1994年に開始された。当時、「情報活用基礎」の講義が一部の学部で開講され、その後いくつかの情報教育科目を新たに開講してきた。その後、高等学校における普通教科「情報」を履修した学生が入学しはじめる2006年を契機に内容を見直し、文系部局におけるプログラム教育の充実などの対応を行ってきた。社会の情報化がますます加速する中で、大学で教えるべき情報教育の内容も常に時代に見合ったものに変革していくことが求められる。「2006年問題」から約10年を経て、本学における情報教育を大きく見直すべき時期に来ていると考える。

いま、本学では学事暦改革の検討が進められている。国際化等に対応した学事暦のあり方を模索するものであるが、この機会を活かして一般情報教育の改革についても検討を進めている。履修の目的としては、「高度情報化社会の構成員としての大学生にふさわしい、情報社会・情報科学の原理、本質、価値、限界、可能性等を理解し、これを使いこなす対応力を修得すること」とし、従来に比べて情報通信・情報社会的側面と情報科学的側面を強化することを考えている。時間数の不足やリメディアル教育への対応として、eラーニングコンテンツの拡充も行っていく予定である。具体的な内容の詳細については、他大学の動向や授業担当教員の意見等を踏まえて調整していくところである。

そこで今号は、大学における一般情報教育のあり方を検討するにあたり、このテーマに相応しい3名の執筆者に寄稿いただいた。

河村一樹氏（東京国際大学）には「大学における一般情報教育の動向」と題して、情報処理学会での調査研究活動について執筆いただいた。情報処理学会では、政府の委嘱を受けて1991年に「一般情報処理教育の実態に関する調査研究委員会」が発足して以来、継続的に一般情報（処理）教育について検討する部会が設けられ、これまで様々な報告、提言を行っている。この流れを組む「一般情報教育委員会」の委員長として、河村氏にはこれまでの経緯と現在の活動について詳しく解説いただいた。ここで策定されているGEBOK（一般情報教育の知識体系）は、これからの大学における一般情報教育の基準となるべきものである。

萩谷昌己氏（東京大学）には「参照基準から情報教育を概観 - 一貫した情報教育を目指して」と題して、日本学術会議情報学委員会 情報科学技術教育分科会において分科会委員長として策定中の情報学分野の参照基準について執筆いただいた。参照基準は大学学部レ

ベルの専門教育の基準を与えるものであるが、これを核として初等中等教育、大学一般情報教育から産業界が求める人材育成まで、一貫した情報教育のあり方を広く議論していただいた。なお、ここで策定されている情報学分野の専門教育の参照基準は、先の GEBOK の項目を滑らかに発展させたものであり、共通教育から専門教育まで一貫した教育を実施できるよう配慮されている。

能城茂雄氏（全国高等学校情報教育研究会事務局長）には、「高等学校における教科『情報』の現状」と題して執筆いただいた。大学において実りのある情報教育を実施するためには、高等学校における情報教育の現状を大学教職員が十分に把握する必要がある。2003年度から情報ABCの3科目として開始された情報科目は2014年度から「社会と情報」、「情報の科学」の2科目として再編された。情報化社会への接し方やモラル、情報の科学的理解といった点が重視されるようになっている。能城氏には、高等学校における情報教育のこれまでの経緯や現在の動向や問題点、今後の展開についてまとめていただいた。

本特集は、今後の大学における一般情報教育のあり方を検討する上で、大いに参考になると考える。本学においても、特集記事の内容を踏まえた活発な議論を促し、一般情報教育の改革を進めていきたい。

- ・ 大学における一般情報教育の動向 ----- 河村 一樹 5

- ・ 参照基準から情報教育を概観 — ----- 萩谷 昌己 13
一貫した情報教育を目指して

- ・ 高等学校における教科「情報」の現状 ----- 能城 茂雄 19